

高島藤樹会

発行 高島藤樹会

〒520-1224
滋賀県高島市安曇川町上小川69
近江聖人中江藤樹記念館内
電話・FAX 0740 (32) 0330
URL <http://www.touju.jp>
E-mail touju@city.takashima.shiga.jp



2005/08/20

中江藤樹フォーラム2005・大洲の現地研修

「ひじりの声」

藤樹先生に次のようなことばがある。すべての人間は、金銀珠玉よりも、なおすぐれた「明徳」というたからを、方寸のうちに賦与されて、この世に生をうけている。天は万物を生み育てる父母であるが、しかしその明徳は人間だけに与えられた。人が、万物の靈とよばれる所には、じつにここにある、とところが、昨日のテレビや新聞をぎわしている事件をみると、人の良心はどこへいったかと、首をかしげることばかりで、心のあたたまるようなニュースは、ほとんど見当たらぬ。こうした現実社会と、先生の教えとの違いは、どうして起きるのか▼先生の答えは、しごく明快である。われわれは、日常生活のなかで明徳を發揮せずに、くもらせてている。そのくもらす原因は、「満心」が暗雲のように、覆われていることにある。その満心を取り除かねば、アグのようになまり、ついにその人の心たてや言行が異なるものになってしまう▼満心とは、われこそが、といふ思いやる心など、さらさらない。この満心のない人間は稀だ、と先生は説く。

CONTENTS	
「ひじりの声」	1
発刊に寄せて	2
事業報告	2
会員のひろば	3
役員紹介	3
コラム 与右衛門さん	4
環の郷を訪ねて①	4

・発刊に寄せて・

今、求められているもの



会長

上田藤市郎

「今程其地に志学の方十四五輩も御座候旨、奇異なる御事と存候」とは、藤樹先生から熊沢蕃山あて書簡の一文です。この度、高島藤樹会に一五〇名を超える志学の方が参集されたことは、誠に奇特なことであり、会員の皆さんに厚くお礼申し上げます。「我が本心の

好む処を好み、本心の悪む処を悪む而已」という先生の教えは、人が誇りをもつて天に恥じることのない生き方が求められている今日の世相に、喫緊の指標であります。本会は、諸事業を通して先生の教えを全国に広め、人々がその知識を深めるにとどめず、先生の教えを表現して生きてくださることを願っています。平成二十年の藤樹先生誕四百年祭を控え、皆様の絶大なるご支援とご協力をお願い申し上げます。

藤樹先生の生きる郷

高島市長 海東 英和

新しい年を澄み切った穏やかな心でお迎えのこととお慶び申し上げます。高島市も満一歳になり、皆様のお陰で、少しずつ高島市民みんなの藤樹先生になってきたようを感じています。私たち市三役もそれぞれ大洲市訪問の機会を得、今も藤樹先生に相談するようにお暮らしになっている市民の姿や街の佇まいに感銘を受けた次第です。

岡山県の総社市長のお力添え

で、DVDが皇太子殿下にもご覧頂けたとの知らせを受けました。またクリスマス・イブにびわ湖放送で放映され、滋賀県民の心にも響いたことと存じます。

かつては、多くの方が手紙を遣り取りして藤樹先生に相談をなさつたとか。現代に生きる私たちも藤樹先生に問い合わせ、考ることで、個人の人生にも高島市の未来にも、大きな影響を与えることでしょう。こんな大変な時代だからこそ、藤樹先生の教えが生き生きと生きる郷でありたいですね。皆様方のご健康を祈り、ご活躍をお願い申し上げます。

事業報告

○平成十七年六月十二日（日）、安曇川公民館において「高島藤樹会設立総会」が開催された。玉垣勝高島市教育長の祝辞のあと、趣意書、

定款、役員選出など五項目の議案は、ほぼ原案通り承認されました。

○同、十二月二十四日（土）BBC（びわ湖放送）で映画「中江藤樹」が放映されました。本会では県下に2000枚のポスターを作成配布し、広く県民にアピールするこ

とが出来ました。

今後の事業予定

○同、八月二十五日（木）、「第一回中江藤樹・心のセミナー」（安曇川公民館）を開催、本会顧問の安原啓氏の基調講演「藤樹教育の五十年を振り返って」が行われました。

次いで行われたシンポジウムでは、テーマ「善き心の良知をそだてるために」に沿って、パネリストに寺田一清氏、廣瀬童心氏、海東英和高島市長、太田満氏をお迎えし、コーディネーターに本会顧問の久保田暁一氏が担当され、当日は近畿への台風上陸の悪天候にもかかわらず、遠くは三重県や大阪方面などから多くの参加者がありました。

○同、十月二十九日（土）「第一回中江藤樹・心のセミナー（パートII）」として、高島市の福祉バスで河原市の正直馬子の生家跡、和邇の宿跡、東海道石部宿の旅館などへの研修ツアーガ行われました。雨天で少し肌寒い日でしたが、バスでは馬子の話で議論百出でした。

江藤樹・心のセミナー（パートII）として、高島市の福祉バスで河原市の正直馬子の生家跡、和邇の宿跡、東海道石部宿の旅館などへの研修ツアーガ行われました。雨天で少し肌寒い日でしたが、バスでは馬子の話で議論百出でした。

会員のひろば

最近の世相を見て

萬木甚一良

テレビで想像もできない異常で残酷な事件や耐震偽造の詐欺行為が報道されている。人々は、地獄の底に蠢いている餓鬼に墮してしまったように思われてならない。このような社会状勢の出現は、人々の心から宗教心が失われたことも一因ではなかろうか。藤樹先生は、その著「原人」「持敬図説」「翁問答」「鑑草」で、彼独特の宗教思想を展開しているが、再読玩味して藤樹の心にせまり、われわれの会から藤樹の宗教心を人々に発信し敷衍していくことも、大切な活動の一端ではなかろうか。

大洲大会に参加して

山本 義雄

8月に大洲市で中江藤樹フオーラムが開催され参加しました。1日目は吉田公平先生の講演「中江藤樹のカウンセリング」。2日目は小学生の意見発表や土居義彦先生の「藤樹先生の教えと学校教育」の発表がありました。家庭は、核家族が多くな

り本来の家庭教育機能も低下しがちで子供の成長過程で必要な家庭のきずなや役割が薄れしており、一方少子化時代となり、藤樹先生のいう「姑息の愛」に育てられがちで、子供のわがままを認めてしまうことが多い。ゆえに自分本位であまり他人や社会のことを考えない人間になつているように見える。このような社会状況の中で人間としての在り方に、日常生活の心がけや実践を説いている藤樹先生の教えが大きなヒントになるのではないか。このフォーラムに参加して、自分なりに理解と感銘を受けました。また大洲藤樹会の歴史と会員のことを聞き及んで教育者や行政のみでなく、一般会員も多く、藤樹先生の教えを継承していくことに日夜、努力されておられる方々に心より敬意を申し上げます。

ウム。久保田暁一先生（本会顧問）の司会で、4名のパネリスト藤樹の心を現代のなかにどう生かすかを議論されました。パネリストのお一人、廣瀬童心先生（童心塾主宰）は、私にとっては人生の師であり、その先生が「藤樹のいう良知とは、笑顔だと思う」と話されました。私は、笑顔の大切さに深く共感を覚えまし

生誕400年を意義あるものに
2008年には藤樹先生の生誕400年を迎えます。毎年、生誕や年忌を記念する行事は儒式の祭典・立志祭等で行われていますが、50年ごとの大祭は、大きな記念事業をもつ特別な形で、開催されてきたと聞いています。この400年記念を迎えるため、準備委員会を昨年の秋に立ち上げました。この準備委員会では、貴重な節目を生かして先生の学徳や生き方を地元高島市内だけでなく、県下、全国関係各地へ広めたいと考えています。その先生の学徳をさまざまな事業として展開し、伝えたいものです。高島藤樹会員の皆様からもご意見を、ぜひお願いしたいと思います。今後も何かとご協力をお願ひする機会が多くなるかと思いますが、よろしくお願ひします。

奇稿のお願い！

コラム

与右衛門さん

藤樹書院建築の大工

松本孝太郎

平成八年に長浜城歴史博物館で『湖北の木匠展』が開かれ参観に行つた。そこで目に留まつた展示品が二点あつた。

一点は、新旭町の太田神社蔵「豊臣秀吉朱印状」(天正十三年・1585)である。これは秀吉が船木、太田村の大工十七人に二十七石の地を与えたという内容の文書である。もう一点は、大通寺山門建地割図(安永年間1772~81)である。大通寺は長浜市にあり市民から「御坊さん」で親しまれ長浜のシンボルである。この山門を建てた大工は軒裏墨書によつて、船木村大工「中務又治郎」と坂田郡常喜村大工「川瀬武右衛門」であつたことが知られる。この船木村とは、現在の北船木をさしていることは言うまでもない。

私は、この展覧会を機に大工組に興味を持つようになつたが忙しさにまぎれ勉強が途絶えていた。昨年、本会会員の石田弘子氏が安曇川文化芸術会館で開かれた文化教養講座で「近江の国高島郡の大工とその技術」の講義をされた。そのお話を機に藤樹書院を建てた大工組は、と思うようになつた。

秀吉の頃から近江と畿内の大工は大工組(高島郡は横江、太田、万木、霜降の四組)に編成され幕府の大工頭、中井主水の支配下にあつた。藤樹書院が建てられたのは、藤樹先生が亡くなられる年の慶安元年(1648)二月である。

その頃の横江大工組記録(中西良哉氏宅に残る)の中に先生没後四十五年正月の記録に、横江大工組に所属する大工全員の名前が記されている。上小川の大工は、惣太夫、太左衛門、忠右衛門の三人である。

当時、百姓の家は三間梁以上の新築・建て直しは、絵図面を添えて請負大工と大工組取締とが連印の上、京都大工頭中井主人へ申請した。中井家は、これに裏書き捺印して建築の許可をあたえた。

そうしたことから、横江の中西家に残る横江大工組の古文書に興味をもち、見せていただいたけるようお願いしたところ、「沢山の古文書で土蔵のなかは寒いし、暖かくなつてからにしては」と、中西良哉氏とは同級生のよしみ、お互に傘寿を迎える歳、体に気をつけての思い、暖かい春が待たれる昨今である。

内田先生の碑



環の郷を訪ねて ①

1

会員募集

本会は中江藤樹先生の遺徳に親しむとともに、その顕彰をかり、もつてわが国のひとづくりに寄与することを目的としています。この趣旨に賛同していただける方は、ぜひ入会して下さい。おもな活動内容は次のとおり。

員数は、152名です。

おもな活動内容は次のとおり。

内田先生の碑

1. 「藤樹賞」の贈呈
 2. 藤樹教材の開発
 3. 藤樹フオーラム、セミナーなどの開催
 4. 藤樹ゆかりの遺跡見学会の開催
 5. 会員の藤樹関連の出版活動支援
 6. 学習会の開催
 7. 会報の発行
- 会費については次のとおり。
- 一般会員 年会費1千円
 - 賛助会員 年会費1万円
- (賛助会員とは事業所等の法人団体です)

■編集後記 ■

小川村の藤樹会が、高島市誕生をきっかけに「高島藤樹会」として新たな時代を迎えました。本年度その会報を創刊させて頂きますにつけ、広報委員会は平成二十年の「藤樹生誕四百年」に向けて今一度「藤樹の熱い想い」「先生の教え」の原点を振り返り、多くの市民のみなさんと会報を通して語り合いたいと考えています。

近江聖人のおもいがみんなの心に今ふたたび蘇り、自然と文化に恵まれた「環の郷」のまちづくりの一助となりますように祈ります。

(表紙題字)

高島藤樹会から是非とも
のお願いで、竹脇曇卿先生にお願い致しました。